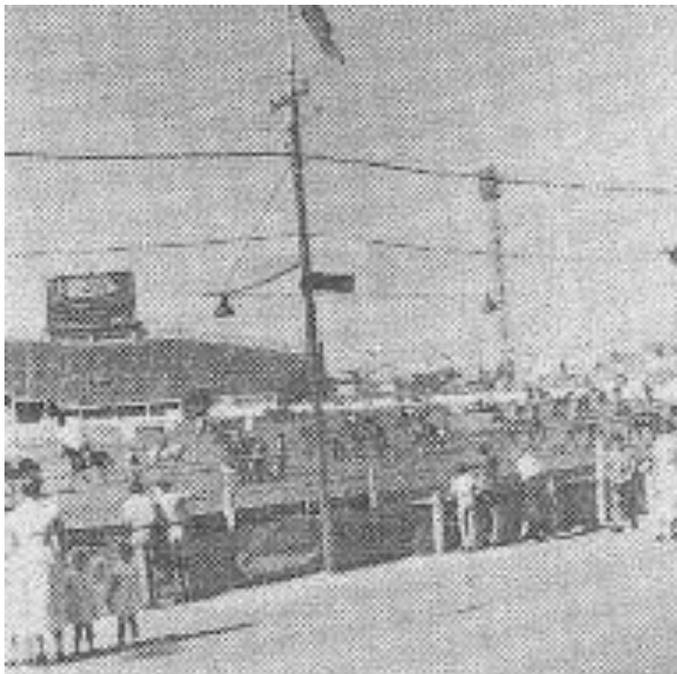


オーストラリアへの旅〔13〕

花尾省治

オーストラリアは広大な面積であるので、各州によって教育も多少異っている。各州の首都にある学校は、生徒の数も多く特に大学にいたっては数千人を収容できるものである。義務教育は8年で、普通6才から14才迄の児童で、所謂国民学校である。州立の公立学校と主として協会関係で経営されている私立学校とに別れている。都市の子供は同じ服装で小型トランクを下げて通学している。日本のように自転車通学は極めて少なく田舎町で僅かに見受ける位である。郊外では学校を見つけることはむづかしい。これは、人口密度が少ないので学校数も少ないが、一校当りの生徒の数も少なく日本の田舎で見るとような大きな学校はない。道路に「ゴー・スロー・スクール」の標識があるので初めて学校あるなと知れる。自動車で走っていたのでは建物が小さく知らずに通り過ぎてしまう。更に奥地となると学校が遠すぎて通学のできない子供達が多いので、これ等子供達の教育のためにオーストラリアの放送局では通信教育の放送を行っている。子



供は顔も知らぬ先生からラジオによって教育を受けている。日本の子供はどんな田舎でも学校に通える点ではオーストラリアの子供より幸福だといえる。国民学校を卒業して高等学校（5年）入学するか3ヶ年で社会に出る者もある。大学はシドニー、メルボルン、

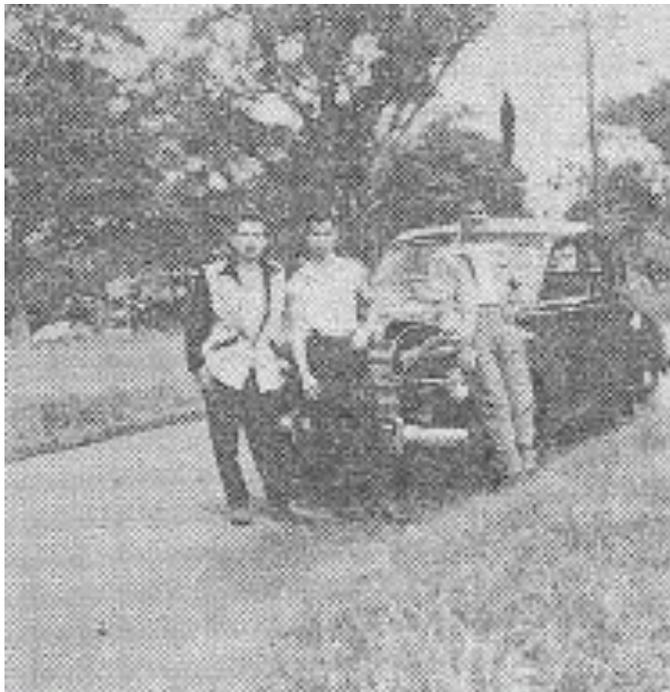
アデレード等が充実して有名である。畜産国だけに農業牧畜の研究が進んでおり、附属農事研究所が完備され研究だけでなく実際指導にも当たっている。

都市の病院は中々立派なものを見かけた。看護婦試験はむづかしいが、看護婦になると特別の権限をもっているといわれている。奥地に入ると急病人、重病人ができた場合一寸医者を呼んでくるとか病院に直ちにつれてゆくわけにいかないの、発信機で連絡を取りラジオで治療法を教わるとか飛行機で入院さす方法をとらなければならない。（官営放送局46、民間放送局102ある）日本では毎日のように強盗殺人、自動車事故、自殺等のいまわしい事件がおきているが、この国では文化の凡ゆる恩恵に浴している国だけにこういった事は殆んど無いといってよい。従って警察官の数も少ないが何分警察官の担当区域が広い面積を受もっている関係、警察官は飛行機なしでは所管内の見廻りができない。州に飛行隊を組織操縦士、無電士等がおり管内のパトロールを行っている。オーストラリアでは航空路の発達によって奥地の人々が色々な面で利益を得ているといえる。

オーストラリアはスポーツの国である。テニス、水泳、クリケット、フットボール、サッカー、ヨット、ゴルフ、乗馬等凡ゆる競技が盛んである。オーストラリアでは雨が少ないことが屋外運動を伸している。又各種の社会施設が行き届いて（失業保険、養老年金、公立病院等）最低賃金が保証せられ労働時間は8時間制であり生活にゆとりがあることが老幼男女をとわずスポーツに親しみます理由ともなる。田舎町でも驚く程立派な運動施設が幾つも設けられており、夜間照明できるようにもなっている。冬のフットボール、夏のクリケット、これは国技としても最も人気がある。ホテルの入口に競技の写真が大写にしている。テニス、水泳等世界的名選手を出しているのでも運動の盛んなことが伺われる。世界的な水泳々法として普及しているクロール・ストロークはオーストラリア人リチャード・カヴィルによって初めて紹介されたものである。日本の柔道の普及も見逃せない。メルボル

岡山畜産便り1957.08

ンだけで11の柔道クラブがつくられている。日本船が入港すると柔道マンが教授を受けにやってくる。(婦女子間でも行われる)日本人は柔道ができ強いものと思っているらしい。クラブ員中最上級は三段位をもっている。



娯楽の第一は競馬であり英国の血を引くオーストラリア人として当然であるかも知れぬ。新聞も競馬記事は思いきって惜みなく紙面をつかっている。大都市には幾つか(夜間けい駕速歩レース場もある)の施設があり2,000m以上のコースをもつ完備したものである。場内は芝生が敷きつめられ手入れが行われ変化のあるコースをこしらえている。開催日は火、土曜等で1日7回のレースが行われ、オーストラリア人の生活の豊かさがなごやかな空気で競馬のスリルを満喫さしている。馬券は単勝複勝式だけで連勝式はなく売りあげ高が自動的に標示され各馬の売上額による配当が察知できるようにしている。メルボルンにあるフレミントン競馬場のメルボルンカップの日は新聞は1週間前から2頁もの特集を出し当日は全市休日で婦人は盛装をこらしオーストラリアの流行はメルボルンカップから生れるといわれている。熱狂的で競馬のため凡てを忘れる日である。又ダンス熱も旺であり映画館も立派なものが多く床には絨氈を敷かれている。映画の最初にエリザベス女王のニコヤカなあのノーブルな顔が映しだされると入場者一同が直立し英本国に敬意をささげていた。